

危険な木の見分け方

倒木・落枝による事故は、度々ニュース等で耳にすることがあります。今回は、倒木・落枝等による事故に遭うのを防ぐために、気をつけることについてご紹介します。

木は人間より長い間生きることができますが、木にももちろん寿命があり、様々なことが要因となって衰退し、死んでいきます。人間とは違い、根の部分があるため、衰退し始めてもしばらく（それなりに長い間）は何事もないように自立していることができます。しかし、一見何ともないように見えても、内部の腐朽や空洞化、根の衰退などが徐々に進み、ある時限界が訪れ、倒木や落枝が発生します。

倒木や落枝は、台風などの強風時に起こることが多いですが（強風時には、健康な樹木であっても、力学的に無理があればもちろん倒れてしまいます）、そうでないときでも、それまで絶妙なバランスで保たれていたものがほんの些細なきっかけで崩れれば、起こりえます。

自然の山の中で、全ての樹木のそうした微細な変化を把握することは、不可能に近いかと思いますが、公園などの人がよく利用する場所に存在する樹木については、定期的な点検を実施して、適切な管理を行い、危険性をなくしていくことが望ましいといえます。

しかし、利用した施設において、適切な樹木管理が行われているかどうかを判断するのは難しいものがあります。たとえ適切な樹木管理が行われており、施設の管理者が危険性を把握し

ていても、金銭的な問題や、伐採する人員の不足、設備（高所作業車など）の手配などの関係で、即時の対応が難しい場合があります。また、バリケードなどで囲ったり、接近禁止にしたりといった対応についても、場所や範囲的に難しい場合があると思います。そのため、被害に遭わないためには、**自ら危険な樹木を感知し近づかないようにする**といった行動が重要になります。

衰退が疑われる危険な樹木の判断材料としては、以下のようなことが挙げられます。

■ 周りの木が展葉している（葉を広げている）のに葉がついていない部分がある

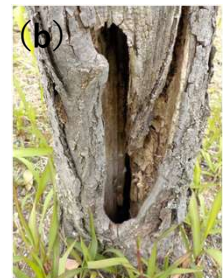
※虫害による被害は除く

■ 揺るとぐらつく

■ 樹皮が剥がれている（例a）

■ 空洞がある（例b）

- #### ■ キノコが生えている（例c）
- ※シイタケのような柄の上に傘が広がるキノコだけでなく、サルノコシカケのように、柄がないものなど、様々な形態があるため注意が必要です



危険な樹木にはなるべく近づかないようにして、楽しいアウトドアライフを過ごしましょう。

製品紹介

オールグリーン24号

硝酸化成抑制剤入りの緩効性肥料



- 緩効性窒素（ウレアホルム）と硝酸化成抑制剤（ジシアンジアミド）の効果で、穏やかで長期間の肥効が期待できます。

- 肥料名称： 緩効性窒素入り化成
- 成分： 窒素 8.0%
リン酸 8.0%
加里 8.0%
Mg 1.5%
- 正味重量： 20kg/袋
- 施用目安： 50~100g/m²

- カリは全量硫酸カリを使用しているため、葉やけの心配が少ない肥料です。

亜リン酸化S006

亜リン酸が発根を促進



- 発根促進効果のある亜リン酸と、窒素成分の流亡を抑えるジシアンジアミド（硝酸化成抑制材）を配合。
- 作物の成長に不足しがちな微量元素マグネシウム（Mg）・マンガン（Mn）・ほう素（B）も配合しています。
- 作物・土にやさしい硫酸カリを使用しています。

- 肥料名称： ジシアンジアミド・亜リン酸入り化成腐植酸
- 成分： 窒素 10.0%（ジシアンジアミド配合）
リン酸 10.0%（亜リン酸配合）
加里 6.0%
Mg 2.0%
Mn 0.1%
B 0.2%
- 正味重量： 20kg/袋
- 施用目安： 30~50g/m²

※施肥量が多すぎると生育に障害が出る場合があります。容量を守って使用してください。

ゲンデル1号・ゲンデル2号

硝酸態窒素配合で速やかに効果を発現



- 植物が必要とするアミノ酸が配合されており、生育促進・結実肥大促進が期待できます。
- 微生物のエサとしても利用されるため、土壤微生物が増殖し、地力の維持・増進効果が期待できます。

- 肥料名称： 硝酸態チッソ・キレート鉄入り有機液肥
- 成分： ゲンデル1号
N 8.0（内アンモニア性2.0、硝酸性1.0）
P 3.0
K 5.0

ゲンデル2号
N 5.0（内アンモニア性3.0、硝酸性1.0）
P 8.0
K 5.0
- 正味重量： 20kg/缶
- 施用目安： [灌水施肥（蔬菜・花卉・芝等）]
300~500倍
[葉面散布（蔬菜・花卉・芝・茶樹等）]
1000倍以上
[原液施肥]
根元より20cm以上離して、葉にかからないよう施用する

- 硝酸態窒素配合のため、低温時や施肥直後の肥効が速やかに発現します。
 - 鉄分がキレートの形で含まれているため、葉緑素のスムーズな生成が促され、作物の健全な生育を促します。
- ※アルカリ性農薬との混用は避けてください。

取扱い・お問合せは—